

3. 地質技術者について

地質技術者は地質学の知見にもとづいて、工学的な視点で地質や地形を考えて、さまざまなわれわれの生活に資することを目指しています。具体的には、建物を構築するときの地盤の安定性や災害が起きたときの対応など、その対象は多岐に亘っています。そして、技術者を支えるさまざまな調査方法や設計手法といったものがあり、最近ではITを活用した解析手法なども発展していますし、学際や業際領域である測量や測地の領域、建設分野との情報交換などデータ×AIも進展しつつあります。地質技術者はこのような領域に精通するということや地質の地史、環境といったことへの配慮など多くの目配りが求められています。地質の特性上、単なるもの、物性として取り扱うだけでは十分ではありませんので、その出自についてしっかりと探求しなければ有効な技術を提供することが出来ません。技術はわれわれの生活に役に立つ手段であり、それは科学を実際に安全に応用する手段であることから当然のこととなります。

地形や地質はまさに、大地の歴史遺産であり、さまざまな情報を内包しているものであるうえに、常に変化変動しているものでもあります。したがって、それを対象とするものは、相手の性格を知り、動きを見定めること、想定したうえで対応を構想し実現可能な技術的方策を提案することが基本となります。また、実践的には二次被害発生 최소화に取り組むことも技術者としての責務になります。自然災害などが起きると地質技術者の活躍が期待されますが、目先の緊急対応にしても先を見据えておかないと、復旧や復興、あるいは避難解除といった次の段階に支障が発生することもあります。

住民の生活は、安全、安心はもちろん安定なことも必須となりますので、技術を提供する上では、保全、維持継続するということを念頭に広い視野での機能とコストの両立を図るマネジメントやトレードオフに対しての課題解決能力も期待されているように思われます。

地質技術者はさまざまな分野で必要とされ活躍していますが、公共的な事業にかかわることも多く、インフラの整備、災害復旧、既存構造物の機能保全、長寿命化、都市計画、文化財の保護というような広い範囲を対象としています。そのような場面では、地質技術者は表舞台よりは影武者、下支えというところでの役割が大きいと思います。求められるのは、地質的なことはもちろんですが、地質学で学んだ視点というか生成環境的な歴史地理学的な知見ではないかと思います。つまり、ねじやナットの

な技能的なものと違う、見る・観る・診ることをベースにした調査能力と分析評価、予測能力のようなモノではないかと感じています。